リーダーになる!

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。

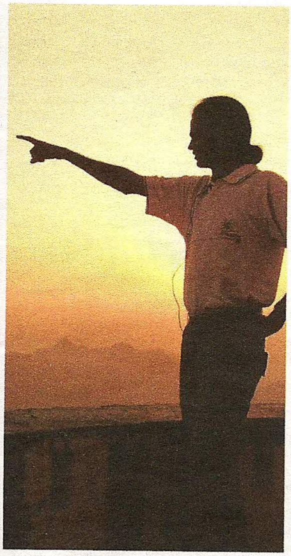
嶋津良智■リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第29回 上司像は焦らずに見つける

新米上司にとって、どんな上司を目指すかは難しい問題です。自分が描く理想に振り回されず、焦らずに自分なりの上司像を見つけましょう。

自らが描く理想の上司像 自分らしさも必要

初めて部下を持った新米上司は、どんな上司を目指せばいいのでしょうか。



「自分には理想の上司像があるから、それを目指す!」
「尊敬できる自分の上司のやり方をまねしてみる」
「テレビで観た上司の姿を自分なりに実践する」
などなど、いろいろな思いがあるかもしれません。もちろん理想を目指したり、尊敬できる上司のやり方をまねるのも悪くはありません。ただし、無理をせず、自分らしくいることも必要なんだということも、忘れないでください。

わたしも上司になりたてのころ、理想の上司を目指したものですが、頑張れば頑張るほど、「上司としての自分の姿」と「本来の自分個人の姿」が遠のいていくのを感じました。自分とはかけ離れた「理想の上司」を追い掛けていくのは、つらく苦しいものでもありました。

理想の上司、尊敬できる上司のあり方を追い求めていくことをあきらめようといっているのではありません。今すぐに完ぺきな上司になる必要はないということを知ってほしいのです。

すぐに完ぺきを求めない 等身大の姿で信頼を築く

上司としての経験がないと、自分なりの物差しを持っていないので、つい自分が部下だったころの上司と比較してしまいます。

しかし、尊敬できる先輩上司だって、最初から素晴らしい上司だったわけではないでしょう。さまざまな仕事や部下たちとのコミュニケーションの中で、少しずつ自分なりの上司像を見つけていったのではないでしょうか。

また、その人の上司像が、自分にもぴったりはまるとは限りません。10人の上司がいれば、10通りの上司像があるものです。あまり無理をせず、まずは自分らしく部下と接することが、大切なのではないでしょうか。そんな等身大のあなたを見て、部下たちは親しみを感じ、信頼してくれることだってあるはずです。決してすぐに完ぺきな上司になろうなんて、焦らないでください。

(『上司のルール』より転載)